

りがとつございました。私は、この交流を通して二つのことを学びました。

一つ目は、地域の文化の違いがあっても、同じだと思えました。家族の温かさや地域を愛する気持ちは同じでした。

二つ目は、遠くの地方に行つて、より南富良野のことが好きになりました。暖かくきれいな海はよかったです。南富良野町のすこしやすしい気候や豊富な自然が好きです。



「南の国の真夏に挑む体験の旅」
下金山小学校 吉田 健人

南

の国の真夏に挑む体験の旅で沖繩に行くことができて、たくさん楽しい思い出ができました。

まず一つ目は、沖繩平和祈念資料館の見学です。沖繩戦の様子を見ることができました。沖繩の地獄の様な日々。洞くつでの生活。日一日、どんどん人が減つていく。とても残酷でした。一番ショックだったのは、写真です。頭から血を流している子どもに口渡してキャンディーをあげている父。口からハエがわいている子ども。目をつぶつてしまいたくなる写真がたくさんありました。また、沖繩戦で生き残つた人が書いた作文も展示されていて、その中に「かわいそうだから殺した。」とありました。本当に同じ日本の中で起きたこととは思いたくない内容でした。今、世界のどこかで起きている戦争もこんなに悲惨なのかと思うと、ぼく達はとても幸せなんだと思うし、これからも沖繩戦を忘れずに、日本がずっと平和な国であつてほしいと思えました。



△平和の礎を見学

次に伊豆味バイン園のことです。伊豆味バイン園のスタッフは、あれほどおいしかったものはありません。また、色々なおみやげもあつて、その中のハブ飴というのがありました。店員さんに「ハブ飴を食べると元気になるよ」と言われたので、四つも買ってしまいました。下山と富良野のばあちゃんに、3つ目は、山部のおばちゃんに、そして、最後の一つは下山小学校の皆に買ったのでした。

次は、ハブとマングースのショーです。はじめに、ニシキヘビを見せてもらいました。ガラガラしていて、ひんやりしていました。そして、「幸運」を呼ぶ白いヘビを見ました。「しっぽにキスをすると願い事がかなうといわれています。」と言われ、キスしたかったのですが、残念ながらできませんでした。そしてマングースです。マングースはハブを食べるので捕まえているのだそうです。

最後に、エメラルドビーチでの水泳体験。カヌーに乗つて海に出ると、海はとてもきれいです。海水は透明で、赤や黒の魚が泳いでいます。ヒトでも発見しました。友達はいませんでした。

最後に、エメラルドビーチでの水泳体験。カヌーに乗つて海に出ると、海はとてもきれいです。海水は透明で、赤や黒の魚が泳いでいます。ヒトでも発見しました。友達はいませんでした。



「楽しかった沖繩交流」
幾寅小学校 金澤 実紅里

私

が沖繩に行つて楽しかったことは、たくさんありますが、その中でも三つ紹介します。

一つ目は、バナナポートです。バナナポートは、思ったよりスピードが遅かったです。でもそのかわりに、水しぶきがすごかりました。それが口の中に入つてしよっぱかったです。

二つ目は、水泳体験です。水泳体験では、沖繩のきれいな海を、のびのびと泳ぎました。……が、誰かのサンダルが流されてしまい、先生が取りに行きました。そのころ私



△エメラルドビーチでの水泳体験

たちは、砂浜から離れた沖で先生を待っていました。そして先生はというと、おぼれかけて向こうの方の沖にいました。それで、私たちが先生の方に行こうとしたら深すぎて、三人おぼれました。このとき、前にいた友達が助けに来てくれました。そのおかげでなんとか浅い所へ行けました。このとき私は、友達についていくなあと思いました。こんなことがあつたから、皆しばらくは、足の届く所で遊びました。

三つ目は、ホームステイです。ホームステイは、私が本部町に行つて一番楽しみにしていたことでしたが、実際家族の前に行くと、とてもきちんちようしました。ただどすくなれて、みんなでパーベ

キューをしました。パーベキューでは、「りゅうびとん」というぶた肉を食べました。そして、いっしょにいた長沼千尋さんが、「ルイビトン？」と言つて、皆は、大爆笑しました。このことがきっかけで、交流が少し深まった気がします。そして、瀬底大橋を渡つてその近くの海岸で花火をしました。皆で楽しく花火をしていると、大空さんのお父さんが「休けい」という合図で、花火をいっただけ休けいしました。休けい時間ひまだったので、砂でトンネルを作りました。すると、皆集まつてきて、トンネルの周りに家を作り始めました。そして、町ができました。その町をカニタウンと名づけました。それを作っていたら花火のことを忘れてしまい、花火があつたので、町の周りに花火を立てて、電灯がわりにして、町を明るくしました。それをやっているうちに、花火がもうなくなりました。だけでもと海の近くで遊んでいたくて、皆はだしになって足だけ海に入れて遊びました。そして帰りには、さんえいというお店で、アイスを買つて帰りました。夜はこふんして、すぐには寝つけませんでした。

も残りでした。一番ショックだったのは、写真です。頭から血を流している子どもに口渡してキャンディーをあげている父。口からハエがわいている子ども。目をつぶつてしまいたくなる写真がたくさんありました。また、沖繩戦で生き残つた人が書いた作文も展示されていて、その中に「かわいそうだから殺した。」とありました。本当に同じ日本の中で起きたこととは思いたくない内容でした。今、世界のどこかで起きている戦争もこんなに悲惨なのかと思うと、ぼく達はとても幸せなんだと思うし、これからも沖繩戦を忘れずに、日本がずっと平和な国であつてほしいと思えました。

私が沖繩に行つて、このように楽しい思い出がたくさんできました。また沖繩県本部町に行きたいです。

「沖繩の楽しさと歴史」
幾寅小学校 目黒 良太

僕

は初めて沖繩に行きました。特に沖繩で残つた思い出は三つあります。

一つ目は、三日目に行つたエメラルドビーチの水泳体験です。まずエメラルドビーチで一番最初に体験したのがカヌーです。カヌーの底が透けているので、こぎながらきれいな魚や二モでおなじみのカクレマノミなど、見たことのない魚やナマコがカヌーをこぎながら見ることができました。その後カヌーをあとにしてからいよいよ水泳体験の時間がやってきました。海の中に早速入ると・・・入つて泳いだそうそう足が・・・付かない・・・しかし足が付かない所で海の底がぜんぜん見えていのです。足が付かなくても僕はマサルのように二メートル以上の深さを



△エメラルドビーチでのカヌー体験

もぐり貝をズグシと採りました。海はとてもきれいで楽しかったです。

二つ目は、三日目のホームステイです。ホームステイでは、まず康大さんのばあちゃんの家に行きました。何を準備してよーと言われたため濡れてもいい服になり、ライフジャケットを着て船に乗りこみいざ出発！！でも周りをみるとなぜだか見たことのある景色？あ！こつてエメラルドビーチ！なんとエメラルドビーチの隣で泳いだのです。するとおじさんが、「君、運転代わつてくれ！」と言われワクワクしながら操縦する席に座り運転をしていると、鳥がいつぱい飛んでいる所に行き、海に飛び込み中を見て



△ひめゆりの塔で祈りを捧げる児童たち

みると・・・美ら水族館で見た魚がいつぱいいました。そして砂浜に戻りスイカ割りをしました。誰も割れず、結局目隠しを外して割りました。その後、康大さんの家に行きこはんを食べました。北海道ではあまり体験できないこと、さらに康大さんの家族とも色々な話をしたりして仲良くなることができました。良かったです。

三つ目は、四日目の平和祈念資料館とひめゆりの塔資料館です。平和祈念資料館で一番怖かったのは、戦争当時着ていた服が展示されていたことです。服は血で真っ黒になり、当時の戦争の怖さを物語っていました。二番目に怖かったのが、実際に戦争に巻き込まれた人々の体験を語っていた映像です。実際の戦争を体験した話が見るよりも詳しく、頭で表現ができません。ひめゆりの塔資料館では、ひめゆりという女学生が病院に配置されて遺体処理などを手伝つたそうです。でも病院といえども地面に穴を掘り、地下何メートルもの深さに作った病院なのです。資料館には、ひめゆりの女学生で生き残つた人の証言がたくさんあります。